

# 第3章 設計書の数値計算

## 第1節 設計書の数値基準

### 1 工種の数値表示

工種区分	設計概要参考例			
河川	護岸工 L = m ブロック積 L = m sℓ = m A = m <sup>2</sup>	根継ぎ工 L = m sℓ(H) = m W = m 床止工 基 L = m H = m V = m <sup>3</sup>	蛇籠工 L = m sℓ = m φ = m 根固工 基	築堤工 L = m W = m(天端) 盛立 V = m <sup>3</sup> (sℓ = m)
砂防	堰堤工 L = m H = m V = m <sup>3</sup>	水叩工 L = m H = m 取付護岸工 L = m sℓ = m A = m	溪流保全工 L = m ブロック積 L = m sℓ = m A = m <sup>2</sup>	床止工 基 L = m H = m V = m <sup>3</sup>
道路	道路築造工 L = m ( ) W = m	拡幅改良工 L = m ( ) W = m	舗装工 L = m ( ) W = m A = m <sup>2</sup>	
橋梁	P C 3 径間連続箱桁橋 L = m ( ) W = m	鋼単純箱桁橋上部工 L = m ( ) W = m (鋼橋製作工 式・t)	鋼単純箱桁橋 L = m ( ) W = m (鋼橋架設工 式・t)	下部工 逆T式橋台工 (A○) 基 柱式橋脚工 (P○) 基
<p>※例を示したものにつきその他のものはこれに準ずること。          なお、会計検査院へ提出する様式第3号への工事概要記入内容とは異なる。          (様式3号へ記入する工事概要はその都度変更されるため、工事事務処理システムには最新の記入要領に沿った入力を行えるよう、別途様式を定め設計書に添付する)</p>				

### 2 数量計算の方法

- (1) 土木工事に係わる工事数量の計算は、「土木工事数量算出要領(案)」による他以下の方法による事を標準とすること。
- (2) 数量の単位、小数位及び数値のまるめ方についても「土木工事数量算出要領(案)」によること。  
 なお、最終値以下は切り捨てとする。内訳書についてもこれに準じ、但し0.1以下の場合は小数点以下3位を四捨五入し2位までとする。
- (3) 数量の単位は、すべて計量法によるものとする。